



手塚建築研究所

手塚(池田) 由比

BEETLE

—海と地の間で—

1969年 神奈川県生まれ
 1992年 武蔵工科大学理工学部建築学科卒業
 第15回学生設計優秀作品展
 1992年~93年 ロンドン大学パーレット校
 1994年 手塚建築企画を手塚貴晴と共同設立
 (1997年 手塚建築研究所に改称)
 1995年~ 東海大学非常勤講師
 2001年~ 東海大学非常勤講師

「経験がアイデアのもとになる」

インタビュー： 共立女子大学 大川玉青/城所有希子
桑沢香織/藤村美真子

建築はたくさん旅行して、いい建物や街を見て欲しいなと思います。見る事はとても大事です。やはりいいなと感動したことがないと、自分でもいいものをつくれのではないかと経験として思います。今も新しい作品をつくる時でも、自分が旅行してこういうところがよかったと、なんとなく頭の中にアイデアの元となつてついたりしているところはあります。私も夫とたくさん旅行して、イタリア、スペイン、フランス、ロンドンなど建物を見てまわるのが本当に好きです。

さらに私の実家は父親の設計した家で、基本的には平屋ですが全ての部屋の前に縁側がついていて、家の中と外が縁側を通してぐるぐると走り回れるようになっていて大好きでした。それは今の私の作品に思いきり影響しています。窓が大きく開いていたり、縁側があったりと中間領域が存在しています。縁側でごろごろして気持ちよかったことが染み付いているので、今にも生きています。

—— 旅行した中で印象に残っている建築はありますか？

基本的に海外に興味があるので、ヨーロッパを中心に見ているのですが、ガウディの「地下教会」が一番感動しました。建物の中に入るととても神聖な空間で、それを肌で感じられる神聖さがありました。暗いけど一つ一つの空間に彫像、マリア様やイエス様の像がありました。そのためだけに空間が出来上がっていて、光がおちてくるのが素晴らしくて感動しました。あと、ポンピドー・センターは絶対おすすめです。私もパリに行った際は必ず行きます。

国内で見るとやはり古建築です。私が一番好きなのは唐招提寺で、日本の持っている素材感やスケール感が時を越えて残っているものは素晴らしいと思います。やはり建物は耐久性だけではなく、人が思い入れを持って大事にしていけないと残っていかないと思います。

—— では、日本の古建築のそうした良いところというのは今にも影響していますか？

実際に副島病院を設計している時は、竜安寺を参考にしていました。バルコニーやルーバーのサイズを決めるなど、日本の中で建物をつくる際には日本に残っている古建築はとても参考になっています。やはりこの国の風土に合っているわけです。どの古建築も風通しが良く抜けるようになってあります。日本の建築は両面の窓を開けると必ず、風が通るようになっておりそういうことはとても大切です。昔の雰囲気とかエッセンスを持ちながらも現代として快適なものができるのではないかと考えています。

—— 卒業設計ではなぜ壁に作品を作ろうと思ったのですか？

敷地を探し回っている時に、昔よく父親に連れて行ってもらって遊んでいた江ノ島の絶壁を見て、ここに建物をつくりたいと思いました。さらに、学生の時に鳥取で崖にへばり付いている三仏寺投入堂を見て、こういう崖にへばりつく建築をつくれたらなと思ったのがきっかけです。

デザインは伊東豊雄さんがその頃やっていた風のような建築にとっても興味があったので、崖にフワッとまとわりついた何かができないかなと発想し始めました。ポットがぶら下がっていて、その前に皮膜がかかっているようなイメージでつくりました。

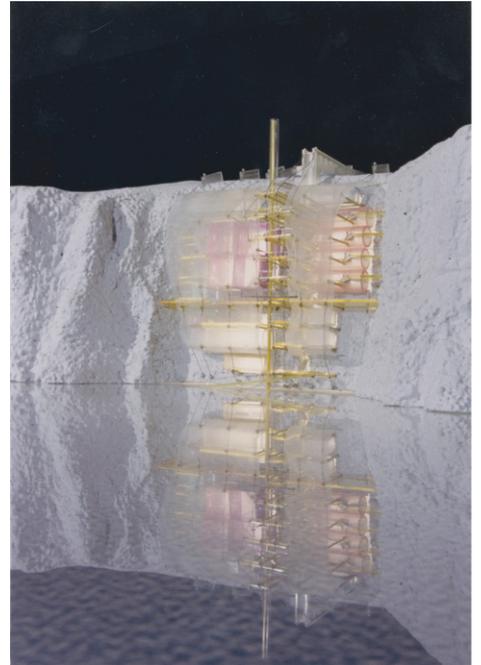
—— 伊藤さんには影響を受けましたか？

当時伊東さんの作品は大好きで、大学一年生のときに「シルバーハット」を見て、伊東さんがあそこ風を大切にしていたデザインが自分にぴったりきて、いいなと思っていました。

また昔から林雅子さんに影響を受けていました。林さんのほうが伊東さんより早く興味を持ちました。浪人時代に時間がたくさんあって、また父が建築家だったので家にある建築雑誌を一日中見て、いろいろ想像して楽しんでいたのが林雅子さんの作品集でした。

—— 現在、尊敬している人はいますか？

非常に尊敬している建築家はルイス・カーンです。やはり建築にかける情熱が並々ならないし、現場でとても細かいところまで決めていて、全体的なコンセプトもしつ



卒業設計写真

かりしていると思います。

あと、最近一緒に「ふじようちえん」をやった佐藤可士和さんは非常に考え方が似ていて共感できる方です。

—— 今興味のあることはありますか？

子供関係のことがやっていけたらなと思います。「ふじようちえん」もそうでしたが、現在上の子が4歳で下の子が1歳9ヶ月なので幼稚園の子供のことが人事ではないし、やはり子供がどういうものが好きで、どういうことに興味があるのかなど自分の子供を見てると見えてくるものがあります。

次のトピックとしては小児がんの子供たちのための病院をつくらうという話があります。子供が入院しながらも、その入院しているところで家庭が持てるような空間をつくりたいと思います。



2007年 ふじようちえん

写真提供/木田勝久